



図1. オニダナエテントウダマシ.

引用文献

尾崎俊寛, 2000. 青森県の甲虫(3) —テントウダマシ科, マルテントウダマシ科—. *Celastrina*, (35): 61-75.  
 亀澤 洋, 2011. 東京都から採集されたダナエテントウダマシ属2種の記録. *寄せ蛾記*, (141): 20-21.  
 佐々治寛之, 1980. 日本産テントウムシダマシ科概説. *甲虫ニュース*, (51): 1-4.  
 澤田和宏, 1983. オニダナエテントウダマシの採集記録. *甲虫ニュース*, (61): 5.

(豊島健太郎 500-8227 岐阜市北一色3-12-14)

【短報】沖縄本島北部でスダジイの腐朽部から採集されたコメツキムシ

沖縄本島北部でスダジイの立ち枯れ及び倒木の褐色腐朽部から2種のコメツキムシを採集しているので報告する。

1. ノムラアカコメツキ *Ampedus (Parelater) nomurai* Ôhira, 1968

1 ♀ (図1), 沖縄県国頭郡国頭村安波, 9. III.



図1. ノムラアカコメツキ ♀.

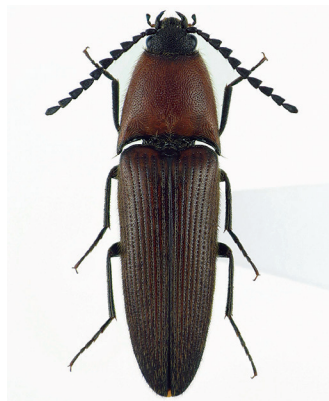


図2. クニヨシムネアカコメツキ ♂.

2018, 緒方裕大 採集.

スダジイ立ち枯れの褐色腐朽部が露出した部分に静止している個体を採集した. 沖縄島では大平(2000)と大平・松尾(2000)がすでに本種を記録しているので, これが2例目の記録である. なお, 有本は1984年7月2日に奄美大島の中央林道から大阪へ持ち帰ったスダジイの赤褐色をした腐朽部から翌年の3月に本種1♀の羽脱を観察している. 今回得られた個体は, スダジイの腐朽部から羽脱した直後と思われる, 偶然その部分に静止していたとは考えにくい. これらのことから, スダジイの腐朽部は本種幼虫のホストの一つであることが判明した.

2. クニヨシムネアカコメツキ *Ampedus (Miwaelater) aritai kuniyoshii* Ôhira, 1968

1 ♂ (図2), 2 ♀ ♀, 沖縄県国頭郡国頭村大南国林道, 8. III. 2018, 1 ♂, 沖縄県国頭郡国頭村安波, 9. III. 2018, 緒方裕大 採集.

採集された個体は全てスダジイの赤褐色腐朽部の割り出しで得た. 本種も前種と同様に幼虫のホストはスダジイの腐朽部であることが判明した.

末筆ながら今回の調査に当たり, 現地を案内頂いた藤川浩明氏(沖縄県名護市)に心からお礼申し上げます.

引用文献

大平仁夫, 2000. ノムラアカコメツキ沖縄島に分布. *月刊むし*, (349): 42-43.  
 大平仁夫・松尾照男, 2000. 松永斎大採集の沖縄産コメツキムシ類. *北九州の昆虫*, 47(2): 105-115.

(緒方裕大 616-8413

京都市右京区嵯峨大覚寺門前堂ノ前町22-14)

(有本久之 558-0052

大阪市住吉区帝塚山西3-4-21)